

# 札幌市議会議員 池田ゆみ 2019年12月号

## 市政事務所だより

【発行】日本共産党 池田ゆみ市政事務所 〒062-0904 豊平区豊平4条10丁目2-13高木ビル1階  
 【HP】 <http://www.yumi-ikeda.com/> 【電話】 818-8367 【FAX】 818-8368



第3回定例市議会報告

### 市民要求の実現に 質問回数、時間とも大幅増

第3回定例市議会（決算議会）は、9月17日から10月28日の日程で開催され、日本共産党市議団は議員が10名に増えたことにより、質問回数、時間が大幅に増え、暮らしや福祉に関わる45の課題を取り上げることができました。

### 冬季オリ・パラ積み立てより支援に

2018年度の決算剰余金は44億7千万円余りとなりましたが、このうち23億円を財政調整基金に積み立て、繰越金のうち10億円が冬季オリピック・パラリンピック基金に積み立てられました。今回の積み立てにより基金は50億円余りになります。

冬季オリ・パラ招致については、市民の意見は賛否が拮抗していること、胆振東部地震の被災者はいまだに暮らしの見通しを持って暮らしていることから、繰越金はこうした被災者や、経済的理由によって修学が困難な学生・生徒の支援などに使うべきと求めました。

### 決算には反対

2018年度の各会計歳入歳出決算の認定については、①個人情報流出を完全に防



決算特別委員会で質問する池田市議

### 幼保無償化、副食費の実費徴収による負担増なくせ

10月から消費税の引き上げと引き換えに、3歳から5歳児の保育料が無料になりましたが、副食費の実費徴収で、かえって負担が増える世帯が生じました。

池田市議は決算特別委員会で「幼児教育保育の無償化といえども、消費税10%への増税は低所得の子育て世帯にとつ

ぐ手だてのないマイナンバー関連経費、②個人情報の流出

の可能性が懸念されるICT（情報通信技術）関連事業費、③都心アクセス道路関連経費が含まれていること、④教育、福祉現場での職員削減が行われたことなどから、反対しました。

### 平和公園街灯転倒防止

「豊平区民の要求を実現する連絡会」の要求くみ上げの中で、「月寒平和公園の街灯の根元が腐食しており危険」と指摘がされました。現地を調査したところ、根元が腐食して穴が空いていました。



早速、豊平区への要望としてあげたところ、転倒防止のため応急処置が施されました。なるべく早い時期に支柱の交換をするということです。

て重い負担となる」と強調。一方で、給食副食費4500円が実費徴収されることになり、「この費用が保育料を上回り、負担が増える階層があるのではないかと、また、その対応はどうするのか」と問いました。

押見支援担当部長は、「逆転現象となるのは26世帯。逆転現象が起きる世帯については、その差額分を補助し保護者の負担が増えないよう対応する」としました。

池田市議は、「世帯収入369万9千円で4人家族の場合、就学援助が受けられ、小学生の上の子は給食費がかか

らないが、保育園に通う下の子は給食費がかかる」とのべ、「こうした矛盾をどう考えるのか、対策が必要ではないか」と問いました。

押見部長は、「学校教育と保育については費用負担のあり方が違う」と制度の違いを強調。池田市議は、「世帯収入が360万円をぎりぎり上回る世帯にとって、4500円の副食費は決して低い負担ではない。明石市などのように本市も副食食材費への助成を行うべき」と主張し、「認可保育園で副食費を全額公費負担するとすれば、いくらかかるか」とたどしました。

押見部長は、助成については「今後、他都市における副食費の取り扱いを注視してい

# 加齢による難聴に補聴器助成を

「加齢による難聴は家庭でも社会的にも孤立しやすく、高齢者の社会参加の障害となっている」と指摘。「難聴になっても社会参加できる支援が必要」と訴え、補聴器の助成を求めました。

池田市議は決算特別委員会で「加齢による難聴は家庭でも社会的にも孤立しやすく、高齢者の社会参加の障害となっている」と指摘。「難聴になっても社会参加できる支援が必要」と訴え、補聴器の助成を求めました。佐々木高齢保健福祉部長は「加齢に伴う身体機能の低下は多くの方に生じ、助成に多額の費用が見込まれるため、慎重な検討が必要」と答えました。

「必要」と答えました。

現在、札幌では聴覚障がい6級の認定を受けた方と、軽度・中等度の難聴がある子どもにも補聴器の助成を行っています。加齢による難聴への補聴器助成はありません。補聴器は片耳分だけで10〜20万円と高額です。

池田市議は決算特別委員会で「加齢による難聴は家庭でも社会的にも孤立しやすく、高齢者の社会参加の障害となっている」と指摘。「難聴になっても社会参加できる支援が必要」と訴え、補聴器の助成を求めました。佐々木高齢保健福祉部長は「加齢に伴う身体機能の低下は多くの方に生じ、助成に多額の費用が見込まれるため、慎重な検討が必要」と答えました。

## 民区要 高齢者の住宅支援など 54項目について豊平区と交渉

「豊平区民の要求を実現する連絡会」(区内の9団体で構成)は11月13日、54項目に渡る区民要求について豊平区と交渉(懇談)を行いました。



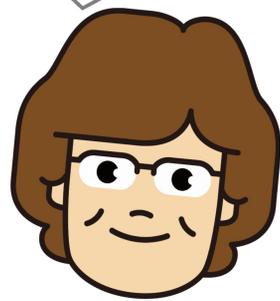
「豊平区民の要求を実現する連絡会」(区内の9団体で構成)は11月13日、54項目に渡る区民要求について豊平区と交渉(懇談)を行いました。

成を実施しており、本市も検討を開始すべき」と求めました。

佐々木部長は、その必要性を「認識はしている」が、現在の助成制度は国の補助制度により実施されているもので、「高齢者への支援については国が検討すべき」とのべ、市独自の対応には応じませんでした。

多くできていくが、家賃が高く、低年金生活者では入れない実態を訴え、低い家賃で入れる高齢者向け市営住宅の増設及び、低所得の高齢者に対する家賃補助を求めました。また、公民館や地区センターの会議室が少なく、サークル活動などで使えないことが多くことから、市営住宅の建てかえで生ずる予定の空き地を公民館の分室の建設にあてることなどを求めました。敬老パスについては、「まちづくりアクションプランで見直すとしているが、

こんにちは！池田ゆみです



みなさんお元気ですか。

秋元市長の2期目の公約も盛り込んだ札幌市まちづくりアクションプランが審議されています。このプランには、敬老パスの見直しや市営住宅の減免制度の見直しなど、市民負担も盛り込まれています。

超高齢化社会の到来と言いつつ、「健康寿命の延長」の取組などを重視するとしながら、敬老パスを「持続可能な現制度からの後退ではなく、タクシーでも使えるよう拡充を」と求め、冬に向けて、パートナードリブ排雪の町内会負担の軽減を求めました。道路や歩道、公園の整備など身近な要求についても要望をあげ、一部は早速対応して頂きました。豊平区からの回答など、詳細については池田ゆみのホームページに掲載いたしますので、ご覧ください。

## お困りごとはありませんか？

池田ゆみ市政事務所では、市政へのご意見・ご要望の他、市民相談も行っています。どなたでも受けられます。一人で悩まずお電話ください。  
無料の法律相談会も月1回行っています。  
**毎月第3木曜日** 午後2時から  
弁護士が対応します。  
予約が必要です。電話 818-8367へ  
場所:池田ゆみ市政事務所 (36号線きたえーるに入る角)  
池田ゆみ市政事務所は10時~16時の間開いています。

能な行政サービス維持のため「見直す」として、後退させることは、高齢者の社会参加を狭めることになるのではないのでしょうか。都市部の再開発は決定すれば、国、市からも補助金がどんどん入ります。高齢化に向かうことは予測できたこと。そこへの予算が増えていくことは当たり前です。お金が足りなくなったら利用者には負担を求めているうとするのは間違っているのではないのでしょうか。「生涯現役」というのであれば、それを支える制度の拡充も併せて行うべきです。